

湖北工業 (コード 6524)

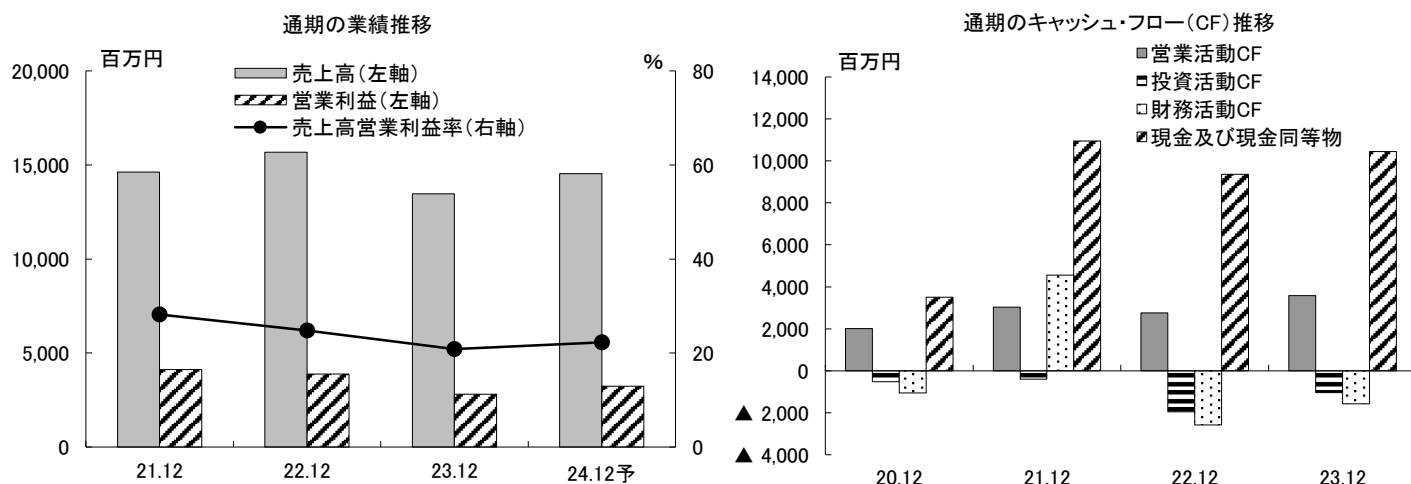
◆通期業績推移(連結) (株式分割を考慮。24.12 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	14,620	4,126	135.6	18.3	3,032	▲406	4,564	10,951
22.12	15,673	3,884	115.4	18.3	2,755	▲1,949	▲2,585	9,362
23.12	13,472	2,812	70.6	20.0	3,577	▲1,033	▲1,577	10,439
24.12予	14,536	3,243	79.2	23.0	-	-	-	-

◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (株式分割を考慮。24.12 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	6,998	2,072	68.7	0.0	889	▲172	▲804	3,563
22.12	7,958	2,042	68.6	0.0	1,197	▲553	▲1,422	10,496
23.12	7,023	1,686	49.8	0.0	1,510	166	▲1,044	10,139
24.12予	6,800	1,427	33.8	0.0	-	-	-	-

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



23年12月期の業績概況…23年12月期の業績は、リード端子事業、光部品・デバイス事業とも厳しい状況となったことから、売上高は前年に比べて14%、営業利益も約28%それぞれ減った。1株当たりの年間配当金は20円(株式分割を考慮)となっている。

当期の売上高は134億7,200万円(22年12月期比14.0%減)、営業利益28億1,200万円(同27.6%減)、経常利益31億5,200万円(同29.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)19億400万円(同37.9%減)となった。営業外収益で為替差益が3億6,200万円(同28.6%減)に減少したほか、特別損失で減損損失2億4,300万円を計上したことなどから、経常利益及び当期純利益については営業利益に比べ減益率が大きくなった。

セグメント別では、リード端子事業が売上高74億円(同11.7%減)、営業利益4,400万円(同80.7%減)、売上高営業利益率0.6%(同2.2%ポイント減)に。光部品・デバイス事業も売上高60億7,100万円(同16.7%減)、営業利益27億6,700万円(同24.2%減)、売上高営業利益率45.6%(同4.5%ポイント減)となり、両セグメントとも減収減益、売上高営業利益率低下となった。

リード端子事業では、自動車生産台数の回復基調や中国を中心とするEV化の進展の一方、サプライチェーン正常化の中でアルミ電解コンデンサの過剰在庫頭在化に伴う市場調整のほか、ステイホーム需要の先食いによってPCなど情報通信機器向けの需要が落ち込んだ。また、スマー

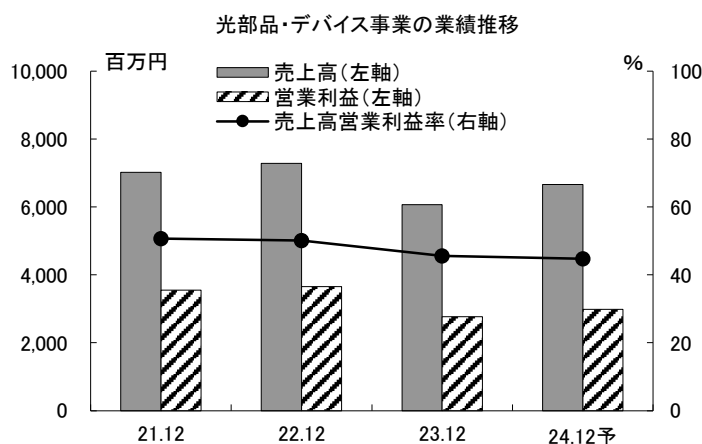
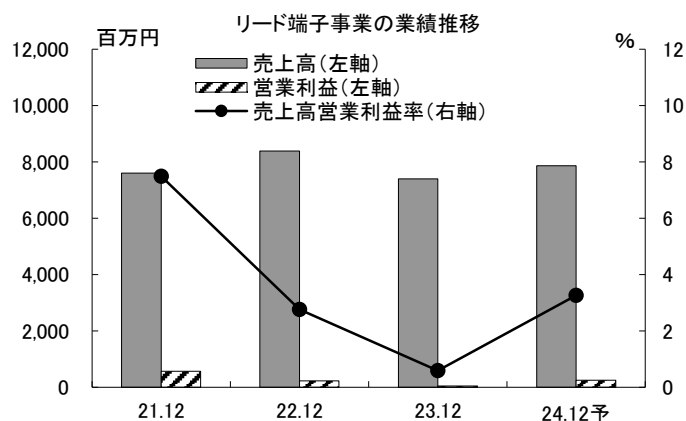
トフォン市場の低迷やデータセンター市場の投資抑制も加わり、厳しい状況が続いた。

光部品・デバイス事業において、海底ケーブル向け光デバイス製品では、世界的な通信インフラの強化に伴う需要拡大を背景に、基幹製品の光アイソレータの販売が堅調に推移した。一方、一部の海底ケーブル敷設プロジェクトにおける計画変更に伴って部品の在庫調整が発生し、光フィルタの販売が減少。また、データセンター市場の調整などにより、陸上光通信用光ファイバレイ製品の販売が大きく落ち込んだ。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末現在の現金及び現金同等物残高は104億3,900万円（22年12月期末比11.5%増）に増えた。営業活動CFは、税金等調整前当期純利益28億6,900万円（22年12月期比35.4%減）、減価償却費7億8,000万円（同12.7%増）、売上債権の減少額6億9,500万円（同251.0%増）、棚卸資産の減少額3億6,000万円（22年12月期は増加額3億4,900万円）、仕入債務の減少額2億3,400万円（22年12月期比12.0%減）、法人税等の支払額12億2,700万円（同30.5%減）などにより、35億7,700万円の収入（同29.8%増）となった。投資活動CFは、有形固定資産の取得による支出14億3,800万円（同66.1%増）、定期預金の預入及び払戻による差引収入額5億9,600万円（22年12月期は定期預金の預入による支出10億円）などにより、10億3,300万円の支出（22年12月期比47.0%減）となった。財務活動CFは、長短借入金の純減額9億3,600万円（同53.4%減）、配当金の支払額4億9,400万円（同1.9%増）などにより、15億7,700万円の支出（同39.0%減）となった。

24年12月期の業績見通し…24年12月期については第2四半期（24年4～6月）以降での回復が見込まれており、通期では売上高145億3,600万円（前期比7.9%増）、営業利益32億4,300万円（同15.3%増）、経常利益32億8,400万円（同4.2%増）、当期純利益21億3,600万円（同12.2%増）の見通し。1株当たりの年間配当金は23円（前期実績比3円増）の予定。

セグメント別予想において、リード端子事業は、売上高78億6,800万円（同6.3%増）、営業利益2億5,700万円（同473.5%増）、売上高営業利益率は3.3%の見通し。また、光部品・デバイス事業については、売上高66億6,700万円（同9.8%増）、営業利益29億8,600万円（同7.9%増）、売上高営業利益率は44.8%の見通し。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。